

FAQs よくあるご質問

BlackRock

サステナビリティを投資の基軸に

1. ラリー・フィンクが投資先企業宛に毎年書簡を送付するのはなぜですか？また顧客にも書簡を送付するのはなぜですか？

ラリー・フィンクが投資先企業のCEO宛に毎年送付する書簡では、長期的な価値の創造にとって重要なさまざまなテーマに焦点をあてています。すべての書簡に共通する中心的なテーマは、株主に高水準のリターンを提供するために企業は長期的な視点から経営にあたる必要があるということです。

今年の手紙においてラリー・フィンクは、運用におけるサステナビリティと気候変動の重要性を取り上げました。さらに、サステナビリティを投資およびリスク管理プロセスにより深く統合するために講じている施策について説明した手紙を、ブラックロックのグローバル・エグゼクティブ・コミッティよりお客様宛に送付しました。

2. 今年の手紙でサステナビリティと気候変動に焦点があてられているのはなぜですか？

ブラックロックは、サステナビリティを統合したポートフォリオはより優れたリスク調整後リターンを投資家にもたらすという投資における信念を持っています。さらに、サステナビリティが投資リターンにますます大きな影響を与えるようになるなか、ブラックロックはすべての投資家がポートフォリオのサステナビリティ特性に配慮する必要がありますと考えます。

3. 投資という観点から見て「サステナビリティ」はどのような意味を持ちますか？

投資という観点でのサステナビリティとは、環境・社会・ガバナンス(ESG)要素を理解し、投資分析および投資決定にそれを統合することを意味します。

4. 手紙でブラックロックはサステナビリティに関するどのような取り組みを明らかにしていますか？

ブラックロックは、サステナビリティをブラックロックの投資手法、リスク管理、ポートフォリオ構築、商品設計、企業との対話において欠くことのできない要素としています。ブラックロックのあらゆる行為は、お客様の目標と選好、さらに関係法令に沿ったものとなります。

ブラックロックは以下を含む施策を講じています：

- ESGファンドをモデル・ポートフォリオなどのマルチアセット・ソリューションの標準的な構成要素とすること。
- アクティブ・ポートフォリオおよびブラックロックの運用プロセスへのサステナビリティの統合の強化。
アクティブ運用ポートフォリオにおけるESGリスクの高い資産の除外などを通じたESGリスクの低減。例えば、現在ブラックロックは売上高の25%以上を燃料・発電用の一般炭生産から得ている企業の上場証券(債券、株式)をブラックロックが運用権限を有するアクティブ運用ポートフォリオから除外する作業を進めており、2020年半ばまでにこのプロセスを完了することを目指しています。
- ESGを重視した商品および化石燃料スクリーニングを取り入れた新商品の投入。
- ステewardシップ活動におけるサステナビリティと透明性への取り組みの強化

5. 「サステナビリティをブラックロックのソリューションの標準にする」とは具体的にどういうことを意味しますか？

過去数年間にわたり、ブラックロックはお客様のためのサステナブルなリスク管理と商品選別の統合を全社規模で深化させてきました。現在、お客様の目標と選好に沿ったこうした取り組みを加速させています。ブラックロックは、さまざまなファンドを組み合わせた投資ソリューションをご提供する際、可能な限り、サステナブルなファンドを標準的な構成要素とする考えです。

6. サステナビリティはより優れたリスク調整後リターンを投資家に提供できるとのブラックロックの信念を支える投資の原則はどのようなものですか？

ブラックロックの信念は単純明快です。より優れたリスク調整後リターンを達成するためには、投資家は企業や発行体が直面するリスクと機会をすべて勘案する必要がありますが、これにはサステナビリティ関連の課題が含まれます。ブラックロックがサステナビリティを投資プロセスに統合し、気候リスクおよびその他の要因が資産価格に及ぼす影響について分析するとともに、投資判断の質の向上のために独自のシグナルを開発しているのも、このためです。

ブラックロックは、多くの場合、気候変動に伴う自然現象に関わるリスクや低炭素経済への移行による影響を含め、ESG要素に関わるリスクと機会は資産価格に完全には反映されていないと考えます。さらに、サステナブル投資に向けた動きそのものが負の外部性を有する発行体からの資本の再配分をもたらしており、今後これは資産価格とリターンにますます大きな影響を及ぼすようになる見られます。

7. 投資プロセスが見直されるのですか？

現在、ブラックロックのすべてのアクティブ運用チームは、投資プロセスへのサステナビリティの統合に対するアプローチを明確に示しています。2020年末までに、すべてのアクティブ・ポートフォリオおよびアドバイザー戦略にESGが完全に統合される予定です。これに伴い、各ポートフォリオ・マネジャーはポートフォリオ・レベルでESGリスクへのエクスポージャーを適切に管理し、ESGへの配慮が投資決定にどのような影響を及ぼしたかを報告する責務を負うことになります。こうした統合は、ブラックロックのあらゆる投資リスク、カウンターパーティリスク、オペレーショナルリスクの評価を担当するリスク・クオンツ分析部(RQA)が統括します。これにより、ブラックロックは信用リスク、流動性リスクといった伝統的な尺度の分析と同様にESGリスクを厳格に精査することになります。

8. 変化が生じるとすればいつになるのでしょうか？

こうした変革はすべて、お客様との協議に基づいて段階的に実施に移されます。

重要事項

当資料は、ブラックロック・グループ(以下、「ブラックロック」という。)が作成した英語版資料の翻訳をブラックロック・ジャパン株式会社(以降「弊社」)が参考情報として提供するものです。当資料は情報提供を目的として作成されたものであり、特定の金融商品取引の勧誘や、投資資産やセクター・アロケーション等の推奨を目的とするものではありません。また、ブラックロック全体、ないし弊社が設定・運用するファンドにおける投資判断と本レポートの見解とは必ずしも一致するものではありません。なお、当資料はグローバルの投資家向けに作成されたもので、日本の投資家には必ずしもあてはまらない内容も含まれております。

当資料は、ブラックロック及び弊社が信頼できると判断した資料・データ等により作成しましたが、その正確性および完全性について保証するものではありません。また、当サイトの各種情報は過去のもの、または、見通しであり、今後の運用成果等を保証するものではなく、当資料を利用したことによって生じた損失等について、ブラックロック及び弊社はその責任を負うものではありません。さらに、当資料に記載された市況や見通しは作成日現在のものであり、今後の経済動向や市場環境の変化、あるいは金融取引手法の多様化に伴う変化に対応し、予告なく変更される可能性があります。

弊社が投資一任契約または投資信託によりご提供する戦略は、全て、投資元本が保証されておりません。弊社がご提供する戦略毎のリスク、コストについては、投資対象とする金融商品等がそれぞれの戦略によって異なりますので、一律に表示することができません。従いまして実際に弊社戦略の提供を受けられる場合には、それぞれの提供形態に沿ってお客様に交付されます契約締結前交付書面、目論見書、投資信託約款及び商品説明書等をよくお読みいただき、その内容をご確認下さい。

お問い合わせ先

ブラックロック・ジャパン株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第375号

加入協会／一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 投資信託協会、日本証券業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

ホームページ <http://www.blackrock.com/jp/>

〒100-8217 東京都千代田区丸の内一丁目8番3号 丸の内トラストタワー本館

BlackRock

9. ポートフォリオ・マネジャーが変わるのですか？

現時点ではポートフォリオ・マネジャーに変更はありません。

10. ブラックロックは、ESG投資がこれまでのような投資を凌ぐパフォーマンスをあげることができると考えていますか？

ブラックロックは、サステナビリティを統合したポートフォリオはより良いリスク調整後リターンを投資家にもたらすという投資信念を持っています。さらに、サステナビリティが投資リターンにますます大きな影響を与えるようになるなか、ブラックロックはサステナブル投資がお客様のポートフォリオの重要な基盤になると考えます。

11. サステナビリティという観点から見たブラックロックのお客様に対する責務は何ですか？

サステナビリティを統合したポートフォリオはより優れたリスク調整後リターンを投資家にもたらすことができると考えられることから、そうしたアドバイスをお客様に提供することがブラックロックの責務であると考えます。しかしながら、決定権はお客様の手にあります。ブラックロックがお客様のために行う投資は、常にお客様の選好、時間軸、目標に沿って実践されることとなります。